



2011年の活動報告

活動報告

安全・安心な交通社会の実現に向けて

安全運転普及本部 事務局長 千葉 英雄

2011年の重点テーマ

Honda が取り組む安全運転普及活動は、今年で 42 年目を迎えました。この間、交通社会を取り巻く環境変化に即応するとともに、運転者のみならず幼児から高齢者を含め「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」と願い活動し、今年は昨年引き続き「地域に根ざした普及活動の定着化」と「社会に求められるノウハウの創出と発信」を重点テーマとして掲げ、活動を展開して参りました。

1. 「地域に根ざした普及活動の定着化」

■ Honda の教育ノウハウを全国へ

熊本を皮切りに、栃木、埼玉、浜松、鈴鹿の各製作所に設置した「地区普及ブロック」による地域普及活動は 4 年目を迎え、交通安全を学ぶ機会と教育ノウハウを全国に拡げるための活動拠点として、定着して参りました。その結果、地域が主体となった交通安全普及活動を担う指導者延べ約 8000 人を養成するとともに、その指導者によって今年だけで Honda のノウハウを活用しながら、全国 321 市区町村、約 40 万人に安全をお伝えすることができました。交通安全意識は幼少期から身につけるほど効果的であることから、特に今年は幼児・小学生向け安全教育に力を入れ、あやとりいシリーズなどのツールの積極的活用により、今年だけで約 30 万人の子どもたちに交通安全教育を行うことができました。今後も全国の多くの子どもたちに安全をお伝えできるよう地域指導者と連携して参ります。

一昨年から始まった Honda 関連企業の従業員で構成される「Honda パートナースhip・インストラクター制度」では、36 社 67 名の第一期生インストラクターが各社周辺地域で参加体験型の親子交通安全教室など、積極的な普及活動を展開しています。そして今年新たに 21 社 33 名の第二期生インストラクターが加わり、100 名の関連企業指導者が誕生し、活動の継続と拡大が期待されています。

また、全国 36 校の教習所と連携した交通安全普及活動では、二輪車安全運転実技講習や、自転車シミュレーターを活用した中・高生に向けた自転車教室、一般向け各種交通安全イベントを開催し、地域から期待される活動として定着して参りました。

Honda 内では全国の製作所の従業員による「工場インストラクター制度」を再構築し、新規インストラクターの養成や再教育を通じて、製作所内外の交通安全に向けた取り組みが活発化しています。

お客様と直接、接する販売拠点では地域住民参加型の各種交通安全イベントや東京都内販売拠点周辺での街頭立唱指導など、今年もお客様に安全を手渡す様々な活動を展開して参りました。「血の通う言葉と心で、お客様を事故から守ろう」という店頭活動の原点に立ち返り、今後も地域のお客様の期待に応えられる活動に取り組んで参ります。

全国 7 カ所の交通安全センターでは、企業や一般の方々を対象とした参加体験型の実践教育に取り組んで参りました。個人向けスクールでの安全運転スキル向上とともに、企業向け研修では、動画 KYT など新たな教育ツールを活用するなど、企業の指導者育成や従業員教育として多くの方々から好評を得ています。

このような交通安全に対する情熱を持つ全国の指導者の皆様によって、それぞれの地域社会から高い評価と信頼を得て交通安全の輪が確実に広がり、2011 年度末までに 32 都道府県で、動員数約 57 万人を超える活動へと広がり、一定の定着が見込まれています。あらためて、Honda の安全思想にご賛同いただいた全国各地の指導者の皆様に、感謝とお礼を申し上げます。

地域に根ざした活動の要は、地域で活躍されている多くの指導者の皆様です。そして、地域交通安全のために献身的に取り組む姿に、あらためて敬意を表するとともに、Honda は地域指導者に対して、今後も交通安全教育ノウハウを提供し、地域内住民のより一層の交通安全意識の向上をめざし、ともに取り組んで参ります。



2. 「社会に求められるノウハウの創出と発信」

■ シミュレーション技術で新分野へチャレンジ

現在、日本では脳機能障害などにより多くの方が社会復帰をめざしてリハビリに励んでいます。そのうち約半数の方が、以前はクルマの運転をしており、その 2/3 の方は「もう一度クルマを運転したい」と考えているというデータがあります。一方で、リハビリ現場で指導する、医師等の医療関係者からは「何を基準に運転可否判断をすればよいのか」と不安視する声が多く寄せられています。

こうした声に耳を傾け、長年蓄積してきたシミュレーション技術を応用し、運転可否判断をサポートする新たな機器の開発にチャレンジし、既に一部のリハビリセンターで検証実験を行い、活用できる一定の目処が立ちました。これにより、一定の判断基準を持って運転に関するリハビリ指導が可能となるサポート機器として、多くの期待が寄せられています。「もう一度クルマに乗りたい」「いつまでもクルマに乗り続けていきたい」と希望する方々をサポートし、いつまでも楽しく安全に運転していたことが Honda の願いでもあります。

今後もこうした社会の期待に応えられるような新たなノウハウの開発をはじめ、地域の指導者が必要とする使いやすい教育ツールや、交通安全センターでの活用を前提にハードを意識した教育ノウハウ、ツールなどの開発にも継続して取り組んで参ります。

■ 海外に向けたマザー機能の発揮

近年、日本の交通事故死者数は 5000 人を下回りましたが、世界の交通事故死者数は、インドで約 13 万人、ベトナムで 1 万人以上と、特にアジア諸国における交通事故死者数が社会問題化しています。こうした状況を我々は看過することはできません。

Honda は、かねてより海外での活動も活発に取り組んで参りましたが、活動を上回るスピードで交通事情が急速に変化しているのが現状です。

安全運転普及本部は、長年取り組んできた安全運転教育のバイオニアとしての自覚を持って世界のマザー機能を発揮し、各国の実情に即した展開を加速しています。具体的には、二輪車市場が急激に拡大するインド、ベトナム、インドネシアを最重点地域とし、各国の現地法人と連携しながら、長期ビジョンと展開計

画を策定中です。

海外展開にあたっては文化や交通事情の違いによって、日本流のやり方をそのまま流用することができないことから日本で教育手法の有効性について試行錯誤を繰り返し、ノウハウを蓄積していくことが重要であり、今後もアジアを意識した国内の活動を加速して参ります。

2012年に向けて

■ 地域に根ざした普及活動の定着と自立

第 9 次交通安全基本計画では「平成 27 年迄に事故死者数を 3000 人以下にする」という目標が掲げられ、「地域の実情に即した身近な活動の推進」「交通安全教育指導者の養成と確保」「効果的な教育手法の開発と導入」などが謳われております。まさに私たちの活動方針そのものであり、今まで以上に官民一体となった重層的な活動や地域で活躍する指導者とより一層連携した「地域に根ざした活動」を全国的に拡大するとともに、地域が主体となって活動できるよう定着と自立をめざし、今後も積極的に展開して参ります。

■ Honda らしい先進性・独自性ある ノウハウの開発と発信

政府が掲げる目標を達成するには、交通安全教育、啓蒙活動の更なる進展が必要です。現状の活動を継続するのみではなく、現況の交通事情や潜在的な諸課題に対する先を見据えた対応が求められます。Honda は長年にわたり蓄積して参りました交通安全教育ノウハウを活かし、こうした諸課題に果敢にチャレンジして参ります。

交通社会の環境変化を的確に捉え、社会のニーズと時代に合致した価値創造にチャレンジし続けること。それが Honda の DNA であり、既存の活動に満足することなく、Honda らしい新たな交通安全教育ノウハウの研究と開発を重ね、交通社会に発信・提供することが交通社会における我々の使命であると認識し、より安全・安心な交通社会の実現に寄与し、喜びの輪、笑顔の輪の最大化をめざして参ります。



「止まる」「観る」という基本行動を身につけてもらうために

Honda は、幼児期から発達段階に合わせた交通安全教育が必要であると考え、交通行動の基本である「止まる」「観る（観察する）」を子どもたちに身につけてもらうための活動を展開しています。さらに、こうしたノウハウを子どもたちの安全教育に携わる保護者や学校、地域の指導者にお伝えする指導者養成活動に力を入れ、交通安全の普及に取り組んでいます。

「あやとりい」の指導者研修を展開

交通安全教育プログラム「あやとりい」は、子どもの成長に応じ3つのプログラムがあります（P27 参照）。これらのプログラムは、幼稚園・保育園、小学校や地域の指導者を中心に活用されており、今年度は全国各地で約 7200 人（10 月末現在）の子どもたちに参加いただきました。

「あやとりい ひよこ編」はイラストやクイズなどを通して、幼児に「止まる」「観る」の重要性をわかりやすく伝えることができると、地域の指導者に好評をいただいています。さらに、「あやとりい」をより多くの地域に普及させるため、地区普及ブロックが全国各地の幼稚園教諭や保育士、地域の交通安全指導員に指導方法やノウハウなどをお伝えし、指導者の養成に力を入れています。今年 4 月には浜松普及ブロックが財団法人静岡県交通安全協会の新任の交通安全指導員、5 月には埼玉普及ブロックが足立区職員、交通指導員の方々を対象に「あやとりい」の指導者研修を実施しました。今年度は、全国 34 都府県 178 市区町村約 1900 人（10 月末現在）の指導者に「あやとりい」のノウハウをお伝えしています。



山形県東根市の交通安全専門指導員による神町幼稚園での「あやとりい ひよこ編」



足立区職員、交通指導員を対象に開催されたあやとりい研修（埼玉普及ブロック）



Honda 関連企業による交通安全活動

Honda は 2008 年より関連企業の中で交通安全指導を担う専任のインストラクターを養成する活動に力を入れています。その Honda 関連企業では、自治体や関係諸団体と協力して、親子で楽しく交通安全を学べる「親子交通安全教室」を、地区普及ブロックのサポートを受けながら開催しています。その目的は、子どもには事故の危険や怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と、子どもの行動特性を理解してもらうことです。飛び出しなど子どもに多い事故事例を再現したり、クルマの運転席から見た死角を子ども自身の目で見て確かめる体験など、親子に気づきを促すプログラムを実施しています。九州地区の「熊輪会」*に続き、今年度は埼玉地区で「Honda 関連企業災害防止協議会」*、鈴鹿地区で「七代会」*が新たに実施するなど、これまでに 11 の地域で、関連企業近隣の親子を対象とした交通安全教室を開催しました。

また、静岡県が主催する「ふじのくに交通安全県民フェア」では「さつき会」*のインストラクターが来場した子どもたちに Honda 自転車シミュレーター（P27 参照）による指導を行いました。



埼玉県狭山地区で開催された Honda 関連企業災害防止協議会インストラクターによる親子交通安全教室



三重県鈴鹿地区で開催された七代会インストラクターによる親子交通安全教室

※「Honda 関連企業災害防止協議会」「さつき会」「七代会」「熊輪会」ともに、Honda 関連企業からなる組織。



多くの子どもたちが交通安全に親しむ機会を提供

Honda は、より多くの子どもたちに交通ルールやマナーの大切さを知ってもらうため、イベントでの啓発活動にも取り組んでいます。今年 8 月には Honda ウェルカムプラザ青山で、「ASIMO といっしょに親子で学ぼう！交通安全教室」を開催しました。2 日間で 98 名の親子が参加。4 歳から小学 2 年生には、「あやとりい ひよこ編」を活用し、インストラクターが道路を渡る時の 3 つの約束として「止まる」「手をあげる」「右、左、右を観る」など、基本的な交通ルールを説明。その後、模擬の信号機と横断歩道を使って、学んだ内容を子どもたち一人ひとりが実践しました。小学 2～6 年生対象の「Honda 自転車シミュレーター」教室では、初めに一時停止や左右後方確認の重要性などを説明。その後、子どもたちがシミュレーターを体験しながら、危険予測トレーニングに取り組みました。

また、イベント会場や交通教育センターで開催している「親子でバイクを楽しむ会」では保護者が先生となって、子どもにバイクを通じて交通ルールやマナーの大切さを伝えています。保護者の方からは、親子の絆を深めることができると評価を得ています。

このほか、「Honda 交通安全かるた」も、かるたを通じて子どもに楽しく遊びながら交通ルールを伝える教育プログラムとして、数多くの地域イベントなどで活用されています。



模擬の横断歩道を使って、「止まる」「手をあげる」「右、左、右を観る」を実践（Honda ウェルカムプラザ青山）



自転車シミュレーターでインストラクターのアドバイスを聞きながら、危険予測のポイントを学ぶ（Honda ウェルカムプラザ青山）



交通ルールの大切さに気づいてもらい 行動変容を促すために

自転車・二輪車など新しい交通手段で通学を始める中学・高校生年代には、交通安全を自分の問題として考えてもらうことで、安全な交通行動の実践へ導くことが大切です。Honda は、生徒に交通ルールを守ることの大切さや、危険予測の重要性に気づいてもらうことで、自ら行動変容を促す活動に取り組んでいます。

事故事例をもとに安全を考える

自転車乗用中に最も事故に遭いやすいのは16～24歳の年代であり、次に多いのは15歳以下です。事故の被害者・加害者にならないように、この年代に向けた自転車教育は重要であると考えられています。そこで今年、Honda では中学生・高校生向けの自転車教育用教材を作成し、希望者が自由に活用できるように、ホームページからダウンロード(無料)できるようにしました。教材は、中学・高校の教職員や、地域の交通安全指導者が、自転車教育を実施するときに役立つ「自転車教育指導マニュアル」と、指導時に使用する「ワークシート」で構成。中学生・高校生の自転車事故をもとに、生徒自身が交通安全について考える内容になっています。

高知県津野町立葉山中学校では、担任の先生がこの教材を活用し、2年生を対象に交通安全の授業を行いました。「無灯火による自転車事故」を題材にしたワークシートをもとに、「事故がなぜ起きたのか」「そのときの自転車利用者の心理状態」「後々どんな影響が出るか」、生徒同士で話し合うことで、無灯火運転に潜む危険について理解を深め、交通ルールを守ることの重要性を再確認しました。指導を行った先生からは、「交通ルールを違反した場合の危険や、加害者となってしまった場合の賠償責任などについて理解してもらうのに効果的であった」と評価を得ています。

高知県津野町立葉山中学校の2年生を対象に行われた交通安全の授業。生徒たちは自分の考えをワークシートに記入し(写真上)、それをもとにグループで話し合った(写真下)



ホンダ 高校生 検索

以下のホームページからダウンロード可能。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/junior/>



自転車乗用中の危険を安全に体験する

地区普及ブロックでは、自治体や警察などの要請に対応し、「Honda 自転車シミュレーター (P27 参照)」による自転車教室を全国各地の中学・高校の生徒を対象に開催しています。埼玉普及ブロックでは、千葉県立柏中央高等学校や筑波大学附属駒場中学校で実施。自転車シミュレーターによる危険運転の体験を通じて、どのような運転が安全かを考えてもらうことが目的です。代表生徒が自転車シミュレーターを体験し、その映像をほかの生徒全員で見た後、再生機能を使って、走行状況を様々な視点から振り返ります。生徒の気づきを促すことで、行動変容に導くことができると、中学・高校の先生方に好評です。

また、財団法人兵庫県交通安全協会は、この自転車シミュレーターを導入。同協会の交通安全指導員が鈴鹿普及ブロックより指導ノウハウに関する研修を受け、今年度から兵庫県内の中学・高校での自転車教育に活用しています。「公道ではできない危険場面の体験ができるので効果的」など、交通安全指導員の評価を得ています。このほかにも警察や自治体、教習所で導入・活用が進んでいます。



筑波大学附属駒場中学校で実施された自転車シミュレーターを活用した自転車教室(埼玉普及ブロック)



財団法人兵庫県交通安全協会の交通安全指導員による自転車教室



「走る・曲がる・止まる」の基本を身につける

高校生・大学生では、移動手段に新しく二輪車・四輪車が加わってきます。全国7カ所にあるHondaの交通教育センター (P22 参照) では、高校生・大学生を対象に二輪車・四輪車の実技トレーニングを実施しています。この年代では、経験不足による判断ミスが原因で事故を引き起こすことがあります。そのため、無理な運転はせず、安全に走行することや危険を予測することの重要性を伝え、「走る・曲がる・止まる」の基本を身につけてもらうことを目的としています。アクティブセーフティトレーニングパークもてぎでは、栃木県立真岡工業高等学校の生徒を対象に、原付安全運転講習を行いました。「ブレーキング」や「スラローム」などの実技に加え、動画 KYT (P27 参照) を使って危険予測能力の向上を図っています。鈴鹿サーキット交通教育センターでは、大阪産業大学の学生に四輪車の安全運転講習を実施。急ブレーキによるABS[※]や、すべりやすい路面での走行などを体験しました。危険を安全に体験することで、安全運転につながってもらうことをめざしています。また、熊本普及ブロックは熊本県二輪車安全普及協会が高校生を対象に開催した安全運転講習会「グッドライダーミーティング」に協力。熊本県内の4カ所の高校で原付通学している生徒に、インストラクターがHondaライディングトレーナー (P27 参照) による危険予測トレーニングを行いました。



熊本県二輪車安全普及協会「グッドライダーミーティング」では、受講者がHondaライディングトレーナーによる危険予測トレーニングを行った(熊本普及ブロック)



インストラクターが交換時期の部品を見せながら日常点検のポイントを伝えた(熊本普及ブロック)

※ ABS = アンチロックブレーキシステム。急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止して車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとする装置



安全運転に役立つ知識と技術を届けるために

Honda の交通教育センターでは運転者の方々に、より安全について理解を深めていただくため、参加体験型の実践教育を主体とした様々な安全運転教育を提供しています。また販売会社では、お客様や地域の方々との関わりを大切にしながら、手渡しで安全をお伝える活動を展開しています。

高度な安全教育を提供する「交通教育センター」

全国7カ所にあるHondaの交通教育センター（P22参照）では、社内外の指導者養成や、企業、学校、個人のお客様を中心に安全運転教育を行っています。今年は約6万人（10月末現在）の方にご利用いただきました。

個人のお客様向けには、Honda モーターサイクリスト・スクール（二輪）やHonda ドライビング・スクール（四輪）を開催。クルマやバイクの魅力を実感していただきながら、楽しく安全知識を身につけられる様々なコースを用意し、お客様のスキルやニーズに合わせて提供しています。

企業向けには、業務内容や安全管理の実態に応じたプログラムを、オーダーメイドで提供しています。職場の安全指導者や運転経験の少ない新入社員への研修、多発事故防止に対応した研修など、企業のリスクマネジメントに幅広くご活用いただいています。特に、近年は環境に配慮した「セーフティ・エコドライブ研修」や、事故を未然に防ぐために危険予測能力を高める「Honda 動画 KYT」（P27参照）研修が注目を集めています。交通教育センターレインポー浜名湖では、今年から静岡県全域の市町に対する動画 KYT の出張講座を開始しており、好評をいただいています。昨年開発された教育プログラム「感情コントロール」※1もすでに多くの企業研



名古屋主催「ヤング・ドライバーズ・クリニック in 鈴鹿」
（鈴鹿サーキット交通教育センター）



静岡県全域市町に対する「Honda 動画 KYT」出張講座
（交通教育センターレインポー浜名湖）

修で導入されています。

他にも、企業や諸団体の交通安全推進担当者様の情報交換の場も提供しており、埼玉県では、交通教育センターレインポー埼玉・和光主催の「2011 トラフィック・セーフティ・フォーラム in 埼玉」を開催し、290 名の方にご参加いただきました。さらに、全国4カ所で交通教育センター主催の安全運転セミナーが開催されました。その一つであるアクティブセーフティトレーニングパークもてぎでは、「社内のできる安全運転指導」をテーマに、事故削減に役立つ指導法の体験会を実施。職場の安全活動に活かそうと、体験会は盛り上がりました。

手渡しで安全を伝える「販売会社」

二輪・四輪・汎用販売会社では、お客様との触れ合いを大切にしながら、手渡しでの安全活動に取り組んでいます。安全運転に関するHondaの社内資格※2を取得したスタッフを中心となって、店頭やイベントなどで安全アドバイスを行っています。販売会社は、安全ミニ講習会やドライビングスクール、ツーリングイベントを開催するなど独自に活動を展開しています。Honda Cars 埼玉中では、6拠点合同でドライビングスクールを開催しました。お客様にABS体験や縦列駐車など安全運転の実技アドバイスを行ったほか、エコドライブの座学講習を実施し、安全と環境について考えていただく機会を提供しました。また、Honda Dream 九州では1泊バイクツーリングが開催され、九州各店舗を出発したツーリング隊約200名が長崎県雲仙に集結。バイクの安全アドバイスのほか、Honda 交通安全かるたを使ったイベントなどを実施し盛況でした。

また毎年春と秋、「全国交通安全運動」（主催：内閣府ほか）にあわせて、オールHonda※3で、「セーフティキャンペーン」を開催しており、販売店スタッフ全員が「交通安全啓発リボン」を付けて自ら交通安全を実践するとともに、各販売拠点で「キャンペーンのぼり」の掲示や「交通安全啓発ツール」の配布を行い、広く交通安全を訴求しています。秋のセーフティキャンペーンでは、東京都のHonda 四輪販売会社が合同で、東京都内全域約110店舗の販売店スタッフ（延べ約660名）が各販売拠点の最寄りの交差点や横断歩道において交通安全街頭活動を実施。各地区の交通安全協会と連携した活動も行われ、お客様や地域の交通安全に貢献する取り組みは広がっています。



「2011 トラフィック・セーフティ・フォーラム in 埼玉」
（交通教育センターレインポー埼玉・和光）



お客様へ直接、安全運転のアドバイスを行うドライビングスクール
（Honda Cars 埼玉中）



秋のセーフティキャンペーンでは、東京都内の各販売店が最寄りの交差点や横断歩道において交通安全街頭活動を実施（東京都ホンダ会※4）

※1 運転中のネガティブな感情（焦り・怒り）とドライバーが運転時に自己コントロールして安全運転に結びつけていくかを心理学的に検証するプログラム

※2 Hondaの社内資格には、お客様に店頭などでアドバイスができる「セーフティコーディネーター」、安全講習会の企画立案、開催の実施指導ができる「チーフセーフティコーディネーター」、お客様の安全で楽しいモーターサイクルライフをサポートする「ライディングアドバイザー」、メンバーの安全な乗り方や正しい取り扱いなどについてアドバイスできる「メンバー安全運転指導員」などがある。

※3 Hondaの全事業所・各部門、交通教育センター、四輪販売会社、二輪販売会社（Honda Dream）、汎用販売会社、ホンダ輸送グループ。

※4 東京都内にあるHonda 四輪販売会社で構成する組織



様々な交通場面で 安全な行動選択をしてもらうために

高齢者の方々は、自身の身体機能の低下を自覚してもらうとともに、意識と行動のずれを少なくするための教育が必要であると考えています。Honda は高齢者の方々に、安全にいきいきと交通社会へ参加していただくため、交通安全知識の提供や自発的な改善へと導く交通安全教育の普及に努めています。

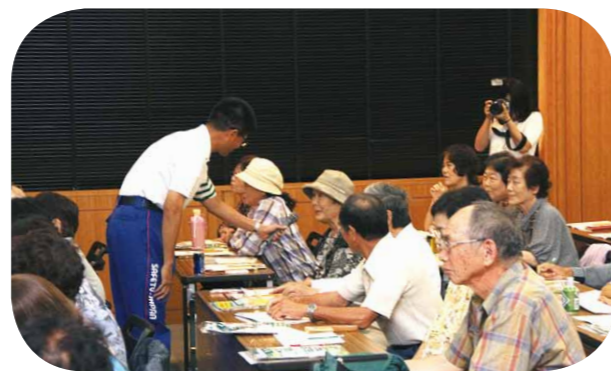


安全な歩行につなげるための教材を開発

高齢者の交通事故死者数の約半数は歩行中に事故に遭っており、事故死者数低減に向けては高齢の歩行者の教育が重要となります。そこで今年、Honda は高齢の歩行者・自転車利用者向けの交通安全教育プログラム「交通安全ビデオ講座※」「シルバー楽集大学」を開発しました。

「交通安全ビデオ講座」は歩行者・自転車利用者が対象で、受講者がビデオに撮影された交通状況（歩行者や自転車利用者、クルマの動き）を観察して、その感想や意見を交換し、日頃の自分の行動を振り返るというものです。自らの良いところや問題点を見つけ出し（気づき）、問題点に対しては自らの力で正しい答えを見つけ出す（解決）ことをめざしています。今年9月、鈴鹿普及ブロックでは、高知県警察本部が主催する「高齢者交通安全ふれあいフェスタ 2011 in Kochi」で、参加した高齢者 112 名を対象に「交通安全ビデオ講座」を活用した講習を行いました。

「シルバー楽集大学」は歩行中・自転車乗中・自動車乗中の各場面で、高齢者自身の安全を守るためのポイントをわかりやすく紹介した教材。紙芝居形式になっているため、プロジェクターやパソコンが使えない場所でも指導が可能です。熊本県では交通安全教育講習員が交通安全教室で、この「シルバー楽集大学」を活用しています。



高知県警察本部主催「高齢者交通安全ふれあいフェスタ 2011 in Kochi」での「交通安全ビデオ講座」（鈴鹿普及ブロック）



熊本県交通安全教育講習員による「シルバー楽集大学」を活用した交通安全教室

※監修:太田博雄・東北工業大学教授



地域に広がる Honda の教育手法

高齢者の歩行者・自転車用の交通安全教育プログラム「あやとりい 長寿編」（P27 参照）も、地域の指導者へ広がりを見せています。「あやとりい 長寿編」は、安全な歩き方や自転車の乗り方、反射材を身につけることの重要性などをわかりやすく伝えるためのものです。今年2月、栃木普及ブロックでは、秋田県警察本部主催の交通安全教育隊研修会で、「あやとりい 長寿編」の普及を行いました。道路の斜め横断の危険性や、昼間と夜間のドライバーからの視認性の違いなどの教育手法を伝えました。

また、各地区普及ブロックでは、高齢者の自転車事故防止のため「Honda 自転車シミュレーター」を活用した交通安全教室を実施しています。浜松普及ブロックでは、福井県大野市・鯖江市などの市役所と連携し、高齢者に自転車乗用中の危険予測の重要性について理解していただきました。



秋田県警察本部主催の交通安全教育隊研修会で「あやとりい 長寿編」を普及（栃木普及ブロック）



福井県大野市主催の「Honda 自転車シミュレーター」を活用した高齢者向け交通安全教室（浜松普及ブロック）



高齢ドライバー・ライダーへの安全運転教育

一般社団法人日本自動車工業会が開発した高齢者向け交通安全プログラム「いきいき運転講座」の普及にも努めています。これは主にドライバー向けですが、運転免許を持っていない高齢者にも対応しています。交通安全トレーニングと、脳の働きを高める「脳トレ」を組み合わせたプログラムで、仲間と一緒に話し合いながら、交通安全力を高めていくのが特長です。今年9月、浜松普及ブロックでは、徳島県警察本部に集まった 140 名の地域指導員を対象に「いきいき運転講座」を実施しました。他の地区普及ブロックでも、自治体、警察、地域と連携して、このプログラムを実践できる指導者を養成し、教育の輪を広げていく活動を展開しています。

実車を使った教育としては交通教育センターで、少人数制教育プログラム「Honda 健康ドライブスクール※」を実施しています。

この他、熊本普及ブロックは熊本県二輪車安全普及協会が高齢者を対象に開催した安全運転講習会「グッドライダーミーティング」に協力。参加した高齢ライダー 21 名を対象に、インストラクターが Honda ライディングトレーナー（P27 参照）による危険予測トレーニングを行いました。

※東北工業大学の太田博雄教授らが公益財団法人国際交通安全学会などで研究成果を報告している「自己観察法」の手法を取り入れている。自分の運転を録画して観察し、「我が身振り見て、我が振り直す」手法。



徳島県警察本部で地域指導員を対象に行った「いきいき運転講座」（浜松普及ブロック）



熊本県二輪車安全普及協会「グッドライダーミーティング」では、受講者が Honda ライディングトレーナーによる危険予測トレーニングを行った（熊本普及ブロック）